

県かこ 兵庫県立加古川医療センター

地域医療連携ニュース

vol. 99

2020年
10・11月号

発行：兵庫県立加古川医療センター 〒675-8555 加古川市神野町神野203番地 <http://www.kenkako.jp/>
TEL：079-497-7000(代表) TEL：079-497-7011(地域医療連携部直通) FAX：079-438-3756(地域医療連携部直通)

もくじ

- | | |
|-----------------------------|-----------------|
| ● 県かこ県民フォーラム …………… 1 | ● 形成外科 …………… 5 |
| ● 兵庫県外傷救急外科グループについて …………… 2 | ● 消化器内科 …………… 6 |
| ● 脳神経内科 …………… 3 | ● 認定看護師 …………… 7 |
| ● 皮膚科 …………… 4 | ● 外来診療表 …………… 8 |

第12回 県かこ県民フォーラムを開催しました

テーマ：兵庫県新型コロナウイルス感染症拠点病院による
～県かこ新型コロナウイルス講座～

2020年10月17日(土) 加古川市民会館にて、第12回県かこ県民フォーラムを開催しました。雨が降る寒い日でしたが、110余名の参加があり、新型コロナウイルス講座として、タイムリーに医師・看護師から新型コロナウイルスについて、病気のこと・感染対策などを講演しました。



「新型コロナウイルスに感染したら…」に不安解消!

院内感染対策委員長兼循環器内科部長 岩田幸代

「新型コロナウイルスは症状が出る2日前から他人にうつしており、感染者の半分は発症前と無症状の人から感染しています。」という内容でした。「加古川医療センターは新型コロナウイルス感染症拠点病院としてコロナ病床の確保に努めています。情報に惑わされず、感染しているつもりで人に接することが大切です。」という説明がありました。

「重症化したらどうなるの?」にズバツと解説!

救命救急センター長 佐野 秀

「新型コロナウイルス拠点病院として200名以上の患者を受け入れています。新型コロナウイルスを発症した人の5%は重症化しており、そのうち入院した40%が亡くなっています。重症化しやすい人の特徴としては男性であること、肥満であること、基礎疾患があること、高齢であることが挙げられます。」という内容でした。



「感染予防はこれでいい?」にスッキリお答え!

感染管理認定看護師 森下直美



「手洗いや手の消毒、マスクの着用は感染予防において、とても大切です。」という内容でした。「マスクの着用のみでは感染を予防できませんが、自分の飛沫を飛ばさないことが重要であり、自分が感染源とならないよう対策することが大切です。」という説明があり、「情報は正しく収集して、正しく怖がりましょう。」と呼びかけました。

兵庫県外傷救急外科 (acute care surgery) グループについて

外科・消化器外科医長 救急科医長 **川嶋 太郎**



この度、神戸大学外科学講座が中心となり兵庫県病院局、兵庫県災害医療センターの協力を得て兵庫県外傷救急外科グループが立ち上がり、当院はその指定病院となりました。

外傷救急外科(acute care surgery)は2005年にアメリカで誕生した新しい分野で、外傷外科、内因性救急外科、外科的集中治療の領域を専門に扱うことを特徴としています。

当院ではこれまででも外科、救命救急センターの双方で急性腹症や体幹部外傷の手術を行ってまいりました。今回のグループの立ち上げにより、外科、救急科双方で研修を行ったメンバーを中心に消化器外科医、救急医の相互協力、研修体制などを再構築した結果、この分野により充実した対応を可能とする体制が整いました。具体的には虫垂炎や胆嚢炎、ヘルニア嵌頓、oncologic emergencyなどの一般救急外科疾患から全身管理を必要とする消化管穿孔や壊死、外傷に伴う臓器損傷まで幅広く一貫した対応が可能です。

ご紹介の際には、これまでと同じく外科・消化器外科、救命救急センターに御連絡いただけますとグループ内の医師が責任をもって対応いたします。

コロナ禍のなかではございますが、引き続きご協力をよろしく申し上げます。



脳神経内科

脳神経内科部長 木村 健一

現在、当科は常勤医1名と非常勤医1名を中心として診療にあたっております。加古川など東播磨地域でも神経内科医数が徐々に増加し、脳神経内科の認知度も増してきています。脳神経内科は脳、脊髄、末梢神経、筋肉に起こる病気の診断および内科的治療を行う診療科です。頭痛、脱力、ふるえ、しびれといったよくある症状を対象とします。気分や精神的な問題は心療内科や精神科が専門的に診療されます。

スタッフ

木村 健一 (平成5年卒)
渡部 俊介 (平成25年卒) (非常勤)

認定施設

日本神経学会準教育施設

主な対象疾患

- ① 脳血管障害：脳梗塞、一過性脳虚血発作や脳出血などがあり、脳神経外科とも連携し診療します。
- ② 神経変性疾患：パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、アルツハイマー病など。
- ③ 神経免疫疾患：多発性硬化症や重症筋無力症など、免疫の異常で起こる病気でステロイドなど免疫抑制剤による治療を行います。
- ④ 神経感染症：脳炎、髄膜炎など、抗菌薬などで治療を行います。
- ⑤ 筋疾患：筋ジストロフィーや筋炎などがあり、大学病院等とも連携し筋電図や筋生検にて診断します。
- ⑥ 末梢神経疾患：神経伝導検査などにて診断し、遺伝性のもものありますが、ギランバレー症候群など免疫の異常で起こるものは免疫グロブリン療法など免疫療法を行います。
- ⑦ 発作性疾患：てんかん、片頭痛など脳波やMRIなどにて診断し、各病型に応じた薬物治療を行います。
- ⑧ またその他内科疾患に伴う神経症状に対し診断、治療を行います。

脳神経内科は認知症、脳卒中、てんかんなど頻度の高い疾患も対象とします。当院の主な診療機能の一つに神経難病医療の提供を挙げていることから、当科では、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、重症筋無力症など、神経難病の診療向上に努めていきたいと考えています。今後とも宜しく願い申し上げます。



フィリップス社製MRI



皮膚科



地域医療連携部長兼皮膚科部長 足立厚子

2020年は3月頃からコロナ禍が始まり、兵庫県感染症指定病院である当院にも、4月、5月は多くの患者さんが入院され、一時期新患受け入れ停止、病床もコロナ対応を確保すべきということで、一般病床は半数ほどに制限、手術も原則中止という状態になりました。しかし、院内感染が発生することなく、本邦全体、兵庫県、そして当院のコロナ患者さんも徐々に減少に転じ、対応策も整備されるようになり、6月頃からは、病床数の3分の2までの制限や、有熱患者さんはまずはコロナを除外する必要があるなど、懸念すべき点が多数ある中で、一般診療が

できるようになりました。我々皮膚科医も新患受け入れを停止していた頃は、先行きが見えず、早く本来の皮膚科診療を再開したいと願っていました。今はほぼ通常通りの機能を発揮できるようになり、楽しく診療をしています。普段の生活がいかに大切かを再認識しました。当院皮膚科の診療内容を述べます。

スタッフ

常勤医：足立厚子部長、竹内千尋医長、横山大輔医師、原田朋佳専攻医、梅村薫専攻医。
非常勤医（外来のみ）：高井佳恵医師

認定施設

日本皮膚科学会教育認定施設。日本癌治療学会教育施設。生物学的製剤認定施設。

医療設備

Waldmann紫外線治療器(全身型・部分型UVA narrow band UVB)、エキシマライト（ウシオ電機）、イオントフォレーゼ、デルマトスコープ、炭酸ガスレーザーなど

当院皮膚科の特色

1960年の開設以来60年以上東播磨地域の中核施設としての機能を果たしてきました。アレルギー・膠原病・乾癬・重症感染症・重症虚血肢・熱傷から皮膚悪性腫瘍まで幅広く、かつそれぞれの疾患について専門的な診断・治療を行っています。スタッフ・医療機器・設備が充実しているうえ、ベッド数が14床と多く、外来加療困難例には入院加療を施行しています。皮膚科は内科的疾患、手術を中心とした外科的疾患の両方をおこなっています。

内科的疾患の治療：特にアレルギー疾患が得意分野で、じんま疹、金属アレルギー、アナフィラキシー、重症型薬疹、ラテックスアレルギー、食物アレルギー、口腔アレルギー症候群について、原因成分まで決定し生活食事指導、代替品紹介をしています。一部の薬物アレルギーには減感作治療も施行しています。救命用自己注射用キット（エピペン）の処方が可能です。難治性慢性蕁麻疹にはゾレア、難治性アトピー性皮膚炎にはデュピクセントを使用し、軽快する患者さんを多く診させていただいています。また膠原病、血管炎、類天疱瘡、天疱瘡などの自己免疫疾患、ベーチェット病などの疾患に悩む患者さんが多発しています。臨床・病理により迅速な診断・精査し、入院も含めた加療・長期経過観察をしています。乾癬・膿疱性乾癬・類乾癬にはオクソラレン内服全身光線治療、全身ナローバンド照射、オテズラ内服、多種類の生物学的製剤も使用しています。乾癬は生活習慣病に伴う全身疾患と位置づけられています。個々の患者様の生活や皮膚および全身状態に合わせ、各々の治療法に伴う副作用にも注意しながら適切な治療をこころがけています。皮膚悪性リンパ腫には病型分類、病期にあわせて全身光線療法、化学療法、放射線療法をしています。

外科的疾患の治療にも力を入れています：皮膚悪性腫瘍には外科的手術、放射線治療、化学療法により集学的治療をしています。局所全摘術のみならずセンチネルリンパ節生検やリンパ節郭清も施行しています。外科的手術、時に炭酸ガスレーザーにより治療し、特に整容面の改善にも心がけています。陥入爪甲にはフェノール法や人工爪、形状記憶合金で加療しています。熱傷、重度感染症・壊死性筋膜炎、壊疽など、必要なときには当院救急部の全身管理をうけながら対応が可能です。

研究会の御案内

加古川医師会の共催をいただき、毎年2回の東播磨皮膚科研究会を当院講堂木曜日夕方に主催しています。また当院褥瘡対策委員会主催の東播磨皮膚・創傷ケア研究会も、加古川医師会、播磨薬剤師会共催にて当院講堂にて毎年開催し、地域の医師、看護師、薬剤師、介護士、ケースワーカーの方々を招待しています。コロナ禍の中、いつ再開できるかは不透明ですが、来年1月28日には東播磨皮膚科研究会を開催し、岐阜大学皮膚科教授清島真理子教授の招待講演を予定しています。近くなりましたらご案内を申し上げます。多数の御参加をお待ちしています。

形成外科

形成外科部長 櫻井 敦

平素より貴重な症例を御紹介頂き誠に有り難うございます。2020年度は4名(常勤医2名、専攻医2名)で診療をおこなっております。外来診療は火曜日を除く毎日、三診体制で行っておりますが、火曜日、休日、夜間も急患は随時対応致しますので遠慮なくご相談ください。

今年はコロナ禍における診療制限等で、近隣医療機関の皆さまには多大なるご迷惑とご心配をお掛け致しました。心よりお詫び申し上げますとともに、罹患された方々の一日も早いご回復を祈念しております。当院では感染対策を万全にし、皆さまに安心して受診頂ける環境造りに取り組んで参ります。引き続き、貴重な症例をご紹介頂けますと幸いに存じます。

当院では外傷症例(主に顔面、手足の軟部組織損傷、欠損、顔面骨骨折、熱傷等)が多い傾向にありますが、近隣の眼科の先生方より御紹介頂く眼瞼形成症例(眼瞼下垂症、睫毛内反症、眼瞼悪性腫瘍の切除、再建 etc.)や皮膚科の先生方から御紹介頂く皮膚腫瘍(良性、悪性+再建)、アザ(太田母斑、異所性蒙古斑、外傷性刺青等)、難治性潰瘍症例(褥瘡、糖尿病性潰瘍、PAD etc.)も多く、最適な治療法を求めて日々研鑽を積んでおります。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

当科で主に扱う疾患

外傷(ケガ)

顔面外傷は受傷直後の適切な治療(形成外科的縫合手技、湿潤療法等)により醜状障害を減らすことができます。また受傷直後の傷跡に対しては、創傷被覆材、内服薬などにより、ある程度目立ちにくい傷跡にできます。経過の長い目立つ傷跡に対しては、修正手術により整容的な改善が見込めることがありますのでお気軽にご相談ください。ケガにもいろいろありますが、当科では顔面骨々折(鼻骨、頬骨、顎骨等)、顔面外傷(切り傷、擦り傷など)、熱傷を中心に全身のケガの診察もおこなっております。手指の損傷(切断指)に対してもマイクロサージャリー(顕微鏡を用いた血管吻合術)で対応しています。

変形、ひきつれ

大きな腫瘍を切除した後や、ケガによってできる深い大きな傷とその周りには変形(皮膚、軟部組織の欠損、凹み、ひきつれ等)が生じます。最近では、より正常な状態に近づけたいという患者様の要望も強く、組織移植(皮膚、骨、脂肪、筋肉等)技術を用いた再建術(乳房再建等)や局所皮弁術等を用いた治療をおこなっています。また術後のリンパ浮腫に対する、リンパ管静脈吻合術(顕微鏡下)も施行しております。

腫瘍(できもの)

良性の“ほくろ”から悪性腫瘍(皮膚ガン)に至るまで、整容的、機能的な面に配慮した手術を心がけています。メスで切る方法や、炭酸ガスレーザーで削る方法など腫瘍の大きさ、形、場所に依りて適切な方法を選択します。特に傷跡を気にされる女性、子供の顔面、四肢の症例をご紹介頂ければ幸いに存じます。

潰瘍、床ずれ

褥瘡(床ずれ)、難治性潰瘍(糖尿病性、末梢循環不全によるもの等)に対して軟膏、創傷被覆材を用いた保存的治療(湿潤療法)から、皮弁術、植皮術といった手術療法まで症例に応じた治療をおこなっております。

先天奇形

合指症、多指症、臍ヘルニア(でべそ)、耳介変形、副耳、眼瞼下垂症、睫毛内反症(逆まつ毛)、母斑(あざ)など幅広く対応いたします。母斑(あざ)治療に関してですが、当科に配備されているアレキサンドライトレーザーは、主にメラノソームに吸収されるという特性を持つため、メラニン色素系の疾患に効果を発揮します。保険適応としては太田母斑、異所性蒙古斑、外傷性異物沈着症(外傷性刺青)があります。

その他

最近では、コンタクトレンズの普及に伴い腱膜性眼瞼下垂症で受診される患者様が増えています。また保険による腋臭症(ワキガ)の治療もおこなっております。

自費診療

トレチノイン軟膏、ハイドロキノン軟膏、アレキサンドライトレーザーを用いたシミ治療をおこなっております。また刺青に対するレーザー治療も行っております。シミ、刺青ともに色素の種類、深さ等により治療効果が異なります。詳しくは形成外来までお問い合わせください。

消化器内科

診療部長兼部長・消化器内科部長 **廣畑 成也**

特 色

現在常勤スタッフ 7名で診療を行っています。

● 肝疾患センター

当院は兵庫県肝疾患専門医療機関に指定され、東播磨地区の肝疾患診療の中心施設として位置づけられています。昨年4月に肝疾患センターを立ち上げ、地域の先生方より様々な肝疾患のご紹介をいただいています。B型・C型肝炎に関しましては年齢に関係なく経口剤のみでの治療が可能となっています。また肝癌に関しましては次々に新しい治療薬が使用可能となり治療の選択肢が広がっています。これからもあらゆる肝疾患に対応すべく当地域の中核医療機関としての役割を果たしていきたいと思っておりますので引き続きのご紹介よろしくお願い申し上げます。

● NASH（非アルコール性脂肪性肝炎）が増えていきます

最近メタボリック症候群を背景にしてNASHが増えてきています。糖尿病、脂質異常症、高血圧、肥満を合併している方で、脂肪肝があり軽度の肝機能異常が持続している患者さんの中に予想外に肝線維化が進行し、肝硬変や肝癌になってはじめて肝疾患の存在に気づく例が増えてきています。NASHの確診には肝生検が必須であり、生活指導も含め入院精査が必要でこのような方も積極的に精査・治療介入を行っています。

● 内視鏡による早期癌の診断と治療が進歩しています

消化管癌の早期発見、悪性度・範囲診断に欠かせない NBI 搭載内視鏡システムを 3 台常設し、常時拡大内視鏡にて精密な観察・診断を行っています。早期癌の場合、内視鏡的粘膜下層切開剥離術（ESD）で1週間の入院で治療可能です。緊急例を含め今後も積極的に内視鏡検査に対応してまいりますので、症例のご紹介をよろしくお願い申し上げます。

● **上部内視鏡検査をお急ぎの時にご利用いただいていた「当日胃カメラ枠」は現在一時的に予約を停止しています。**今後のコロナ感染状況を見てなるべく早期に再開予定です。しばらくは不自由をおかけいたしますがご理解をお願いいたします。



検査・治療実績（2019年度）

上部消化管内視鏡検査	2637
緊急内視鏡（止血術含む）	95
緊急止血術	49
食道静脈瘤結紮術（EVL）	50
内視鏡的粘膜下層切開剥離術（ESD）	44
胃瘻造設術	17
下部消化管内視鏡検査	1731
止血術	36
ポリープ切除術（EMR&ポリペク）	660
内視鏡的粘膜下層切開剥離術（ESD）	30
ERCP	177
胆道ドレナージ（ERBD/ENBD）	67
胆管結石砕石・除石術	80
EUS	76
EUS-FNA	5
小腸カプセル内視鏡	5
腹部超音波検査	3399
造影腹部超音波検査	77
肝生検	94
肝炎抗ウイルス療法新規導入	36
経皮的肝ラジオ波焼灼術（RFA）	27
経カテーテル的肝動脈塞栓療法	74
BRTO	6
肝癌分子標的薬導入	13

地域医療機関の先生方へ

3月以降新型コロナへの対応のため一部診療を制限せざるを得ない状況が続いていましたが、徐々に診療機能はもとどりつつあります。今後とも、緊急例、診断困難例はもちろん、検査のみのご要望でも積極的に対応してまいりますので、ご遠慮なくご紹介いただければ幸いです。今後ともよろしくお願い申し上げます。

スタッフ

尹 聖哲	副院長兼肝疾患センター長兼消化器内科部長	昭和57年卒
廣畑 成也	内視鏡・超音波担当部長兼消化器内科部長	昭和60年卒
塚本 喜雄	内視鏡センター長兼消化器内科部長	平成6年卒
戒谷 力	消化器内科医長	平成15年卒
岡田 寛史	消化器内科医員	平成25年卒
草野 淳	消化器内科医員	平成26年卒
渡部 貴文	消化器内科医員	平成27年卒

救急初療室とドクターヘリ・ドクターカー with コロナ

救急看護認定看護師 森本綾子

新型コロナウイルス感染症が発生して9ヶ月が経過しました。未だ制御されていない中で、当院救命救急センターは、かかりつけの患者さんや突然の事故や病気で運ばれる一般の重症患者さんの対応と、新型コロナウイルスの感染が疑われる患者さんへの対応も行っています。救命救急センターの初療室には1分1秒を争う状態の患者さんが運ばれてきます。私たちの業務は生命の危機にある重症患者さんへの「蘇生に繋がる診療の補助と看護」とそのご家族への「精神的援助」です。新型コロナウイルスが流行してからは、私たち職員が感染しないよう防護具を身に着けながら看護にあたってきました。初療室フロアや診察室などはエリア分けをし、感染が疑われる患者さんの部屋とそれ以外の部屋を区別しながら業務に従事しています。これまでにない環境で戸惑いや慣れないこともたくさんありますが、初療室スタッフ全員が感染対策に高い意識を持ち、看護の質を落とさないよう日々実践しています。



初療搬入された患者さんへ防護具を付けて治療している様子

また、当院の初療室ではドクターヘリやドクターカーに乗って救急現場へ向かい救命処置を行うこともあります。新型コロナウイルスの市中感染が拡大する状況においてもドクターヘリの要請があれば飛んでいきます。ドクターヘリやドクターカーは初療室と同様に、防護具を付けて活動します。防護具を付けたまま炎天下のなか活動することは想像以上に過酷です。それでも頑張れるのは、初療室に搬送された患者さんが元気になって退院されるためです。収束の兆しを見せない感染状況ですが「with コロナ」としてこれからもひとりでも多くの患者さんとそのご家族の笑顔が見られるよう、さらなる救急初療室での看護の質向上を目指し努力して参ります。



ドクターヘリと防災ヘリ





県立加古川医療センター外来診療表

令和2年10月1日～

		月	火	水	木	金
総合内科	初診	石田	大北	日野	樫谷	中村
消化器内科	1診	埜本(さかもと)	【尹(ゆん)】(再診のみ)	廣畑(午前)	【尹(ゆん)】(再診のみ)	埜本(さかもと)
	2診	廣畑	岡田	【担当医】	廣畑	戒谷(えびすたに)
	3診				草野	岡田
循環器内科	1診	福田	鈴木(～14時)	岩田	片嶋	岩田
	2診	【禁煙】			【ペースメーカー】	
脳神経内科		木村	木村	木村		渡部
糖尿病・内分泌内科	1診	飯田	芳村	飯田	石田	樫谷
	2診		【立花】			
緩和ケア内科	入棟面談	担当医		担当医		担当医
	サポーターケア外来 (緩和ケア外来)	田中		田中		田中
生活習慣病		【尹(ゆん)】 肝炎	【戒谷(えびすたに)】 肥満	【大西】 肥満	【石井】 肥満	
		【福田】 禁煙	装具外来			
リウマチ科	1診	田中	田中	田中	田中	担当医1
	2診	村田	塩澤	塩澤	塩澤	担当医2
	3診	西田	吉原	吉原	吉原	担当医3
	4診	中川	【上藤】	村田	村田	中川
腎臓内科			加藤(午後)		加藤(1,3,5週)	
外科・消化器外科	1診	高瀬	衣笠	小林	担当医	高瀬
	2診	多田羅(たたら)	川嶋	門馬(もんま)		【衣笠】
心臓血管外科			担当医			担当医
脳神経外科	1診	担当医	森下	森下	担当医	相原
	2診		荒井	荒井		森下
乳腺外科	1診	石川	石川		石川	担当医
	2診	小林	担当医		小林	
整形外科	1診	原田	中川	高山	青木	
	2診	高原		市村	西原	
	3診	【青木】		原田	【高山】	
	骨粗鬆症	午後	【上藤】		【市村】	
形成外科	1診	櫻井	交代制	櫻井	櫻井	櫻井
	2診	谷口		谷口	谷口	谷口
	3診	【佐竹】		【佐竹】	【佐竹】	【佐竹】
皮膚科	初診/予診	【梅村】	【原田】	【高井】	【横山】	【梅村】
	1診	横山	足立	足立	竹内	足立
	2診	原田	梅村	竹内	原田	横山
眼科	1診		薄木	薄木	薄木	薄木
	2診	徳川	徳川	徳川		
	3診	秋田	秋田	秋田		
泌尿器科	1診	丸山	脇田	田中	丸山	田中
	2診		大場			大場
放射線科	(IVR)	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
	(治療)	担当医		担当医		担当医

予約受付時間 平日 9:00～18:30 土曜日 9:00～11:30 (祝日除く)

※各科診療予定は変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※【 】は予約できませんが、特別に受診を希望される場合等は、ご連絡下さい。

※リハビリテーション科・スポーツ整形は、主に学生アスリートの方を対象とさせていただきます。

※総合内科は新規紹介患者の受入れを当面の間(令和3年3月末までを予定)停止しています。

お願い 患者様の待ち時間短縮のため、FAXまたはインターネットで初診予約をお取り下さい。